

参 考 手 本

流水我耳に静なり

※これは規定課題ではありません。

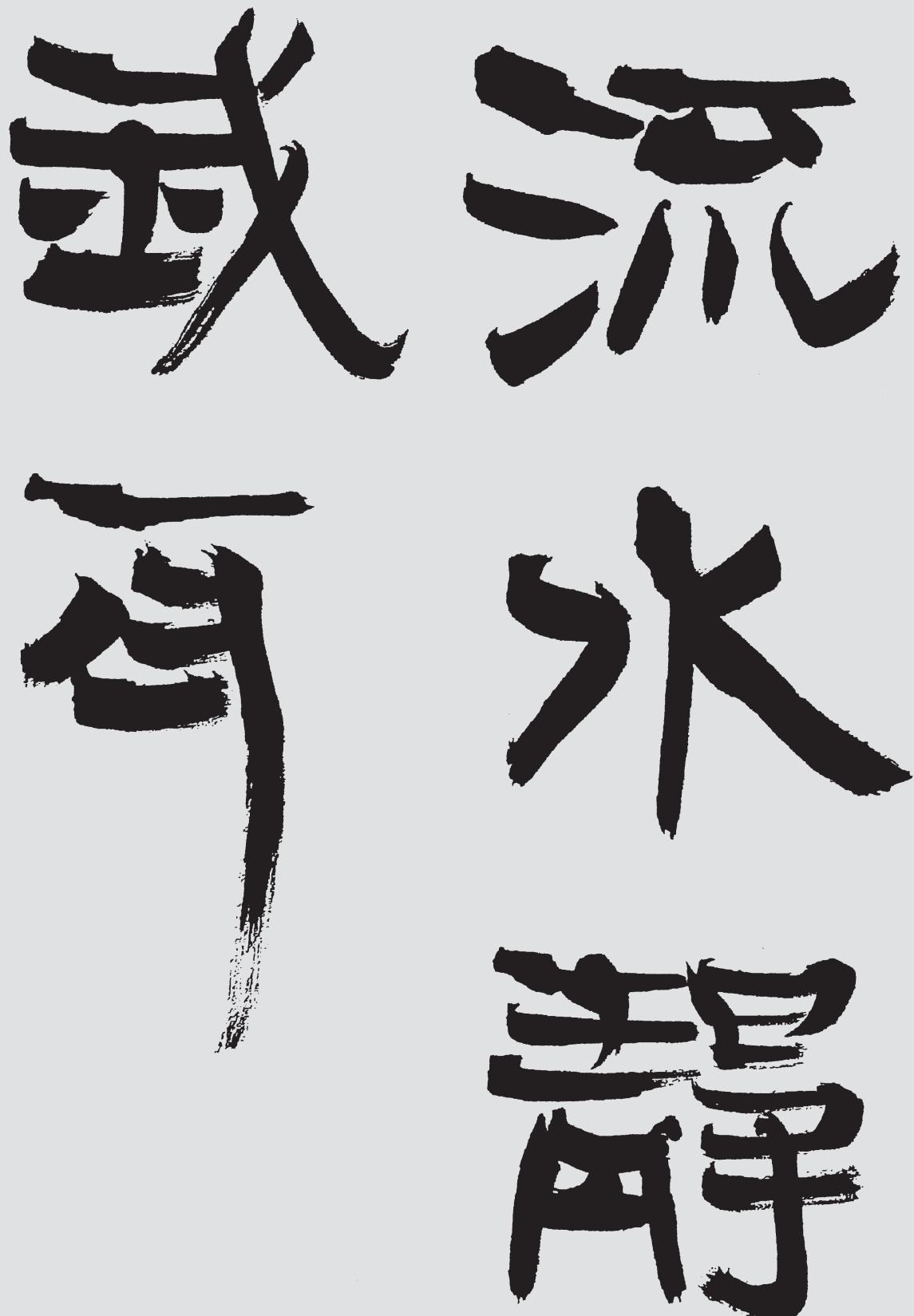


高木聖雨先生

参考手本

流水我耳に静なり

※これは規定課題ではありません。



高木聖雨先生

条幅規定

A部(準五段以上)
B部(四段～準三段)



『ぎれいぞうせつほうしようぞうぞう魏靈藏薛法紹造像記』③

(北魏)

懷綴嘆之悲。慧日

潛暉。哈生銜道慕之癌。

是以應真。悼三乘之靡

憑。遂騰空以刊像。爰

暨下代。茲容厥作。鉢

てつひの懷綴嘆の悲しみを懷き、
けいじつひかり慧日暉を潜
めより、哈生は道慕の痛みを銜
む。是を以て應真は三乘の憑る靡
きを悼み、遂に空に騰りて以て像を
刊む。爰に下代に暨びて、茲の容
れ作る。鉢

【今月の課題】

「日潛暉。哈生銜道慕之癌。
是以應真。悼三乘之」

(17字)

(9月10日締切)

条幅のバーコード出品券にはA・B・Cでは無く段・級を記入して下さい

条幅規定

C部（二段以下）

受想行識。一曰。是倉利子。
是諸法空相。不生不滅。
不淨不增不減。是故空中無
色無受想行識。無眼耳鼻
舌身意。無色聲香味觸法。
無眼界乃至無意識界。無三
明。二無漏。三明盡。乃至無老死。
二無老死盡無苦集滅道無

『集字聖教序』 王羲之

受想行識。亦復如是。舍利子。是諸

注空相不生不滅不壞不淨不垢

無眼耳鼻舌身意。無色聲香味觸法。

無眼界。乃至無意識界。無無明。亦無無明盡。乃至無老死。亦無老死盡。

無苦集滅道。無

受想行識も、亦た復た是くの如し。か

舍利子。是に諸法は空相にして、生

まれて渦てまわる。塙れて浮かだらう。

色無し。受想行識も無く、眼耳鼻舌身意の無く、色言香味触法の無く。

眼界も無く、乃至意識界も無し。無

明も無く、亦た無明の尽くること
も無^{なし}。乃至老死も無く、亦た老死

の尽くることも無し。苦集滅道も無

【今月の課題】

「不滅。不垢不爭。不曾不滅。」

是故空中無色。無受

（18字）

条幅のバーコード出品券にはA・B・Cでは無く段・級を記入して下さい

18
字

「不滅。不垢不淨。不增不減。」
是故空中無色。無受。」

【今月の課題】

半紙規定(一)

曹全碑（漢・作者不詳）



害退於戌亥

※清書作品には支部名・段級・雅号を必ず筆で記入して下さい。
※清書の提出は〔初段以上〕楷書か隸書　〔一級以下〕楷書

害は戌亥の間に退きたれば、

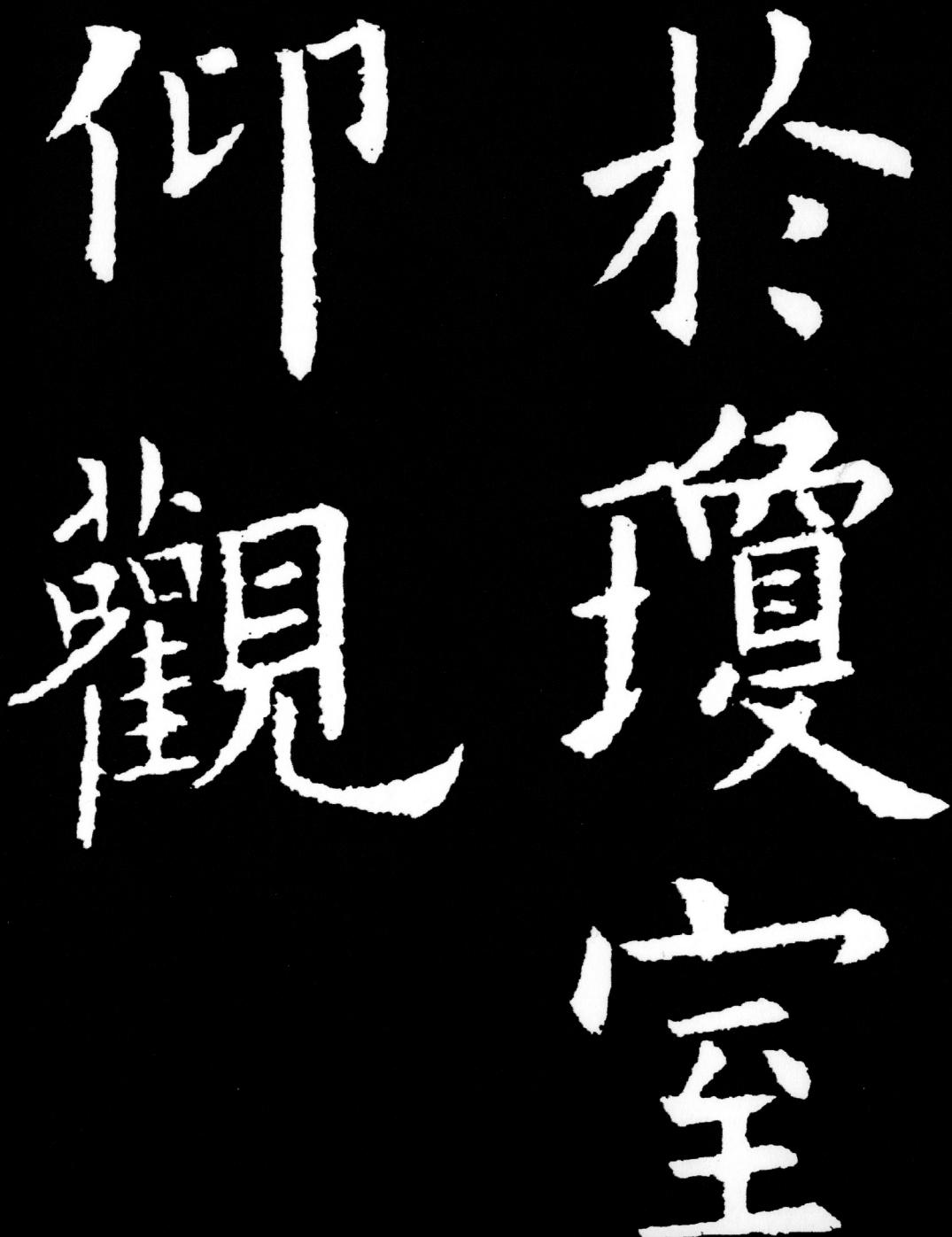
[この課題を同月の半紙随意には出品出来ません]

(9月10日締切)

半紙規定(二)

九成宮醴泉銘（唐・歐陽詢）

於瓊室仰觀



※清書作品には支部名・段級・雅号を必ず筆で記入して下さい。
※清書の提出は〔初段以上〕楷書か隸書　〔一級以下〕楷書

瓊室に続く。仰ぎて壯麗なるを觀れば、

[この課題を同月の半紙随意には出品出来ません]

(9月10日締切)

条幅参考本

漢國山河在秦陵草樹深暮雲千里色無處不傷心

長澤 豊雲先生

漢國山河在秦陵草樹深暮雲千里色無處不傷心

漢國山河在 秦陵草樹深 暮雲千里色 無處不傷心
漢国山河在り 秦陵草樹深し 暮雲千里の色 処として心を傷ましめざるは無し

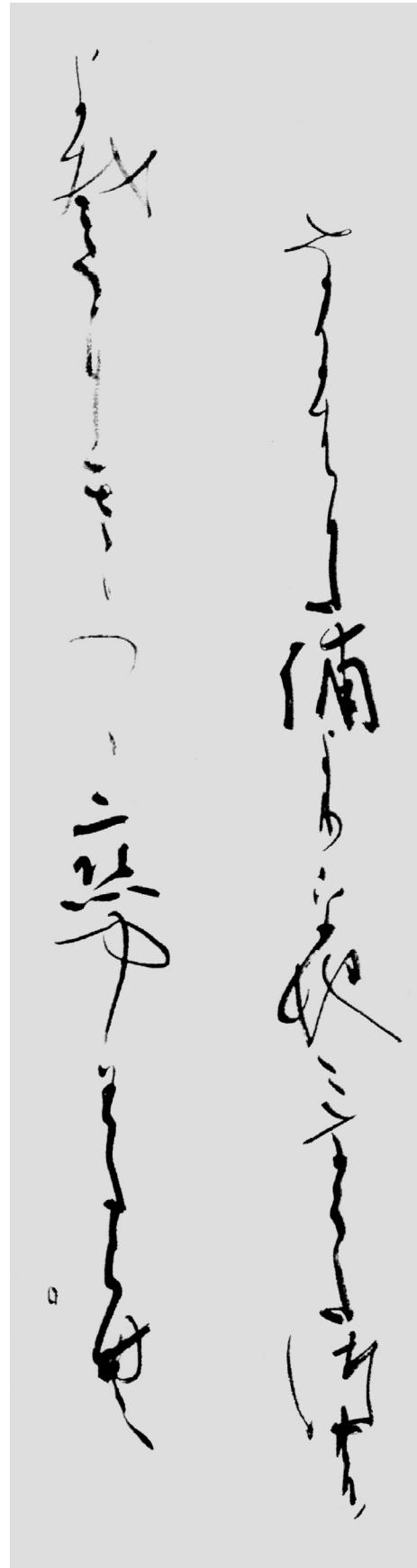
大井岳陵先生

幽徑爲誰開
美人城北來
王程倘餘暇
一上子陵臺
幽徑誰が為にか開く
美人城北より来る
王程倘し暇を余さば
一たび上れ子陵の台

幽徑爲誰開
美人城北來
王程倘餘暇
一上子陵臺
幽徑誰が為にか開く
美人城北より来る
王程倘し暇を余さば
一たび上れ子陵の台

条幅かな

難波がた浦より遠になく鶴のよそにきつゝ恋やわたらむ（源実朝）
 奈爾者可多利平地二奈多徒農楚耳
 なにはうるそらへりとくつてのよそにきつゝ恋やわたらむ（源実朝）
 なにはうるそらへりとくつてのよそにきつゝ恋やわたらむ（源実朝）



※かな部は支部名・段級・姓号を鉛筆で左側下部に添え書きして下さい。

条幅参考本

結廬在人境 而無車馬喧 問君何能爾 心遠地自偏
 爬を結んで人境に在り 而も車馬の喧しき無し 君に問う何ぞ能く爾るやと 心遠ければ地自ら偏なり

結廬在人境 而無車馬喧 問君何能爾 心遠地自偏

浮 乘 清 鄉 先 生

石 田 輝 仙 先 生

(9月10日締切)

半紙かな(初段以上)

かすみだにやまちにしばしたちどまれすぎにしはるのかたみとも見る
三多二万遅八志多地万爾者可多三母み無み
(相模)

*支部名・段・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。
*ちらし文字変換は自由

支部名 段 姓 号 (鉛筆可)



浮乘清郷先生

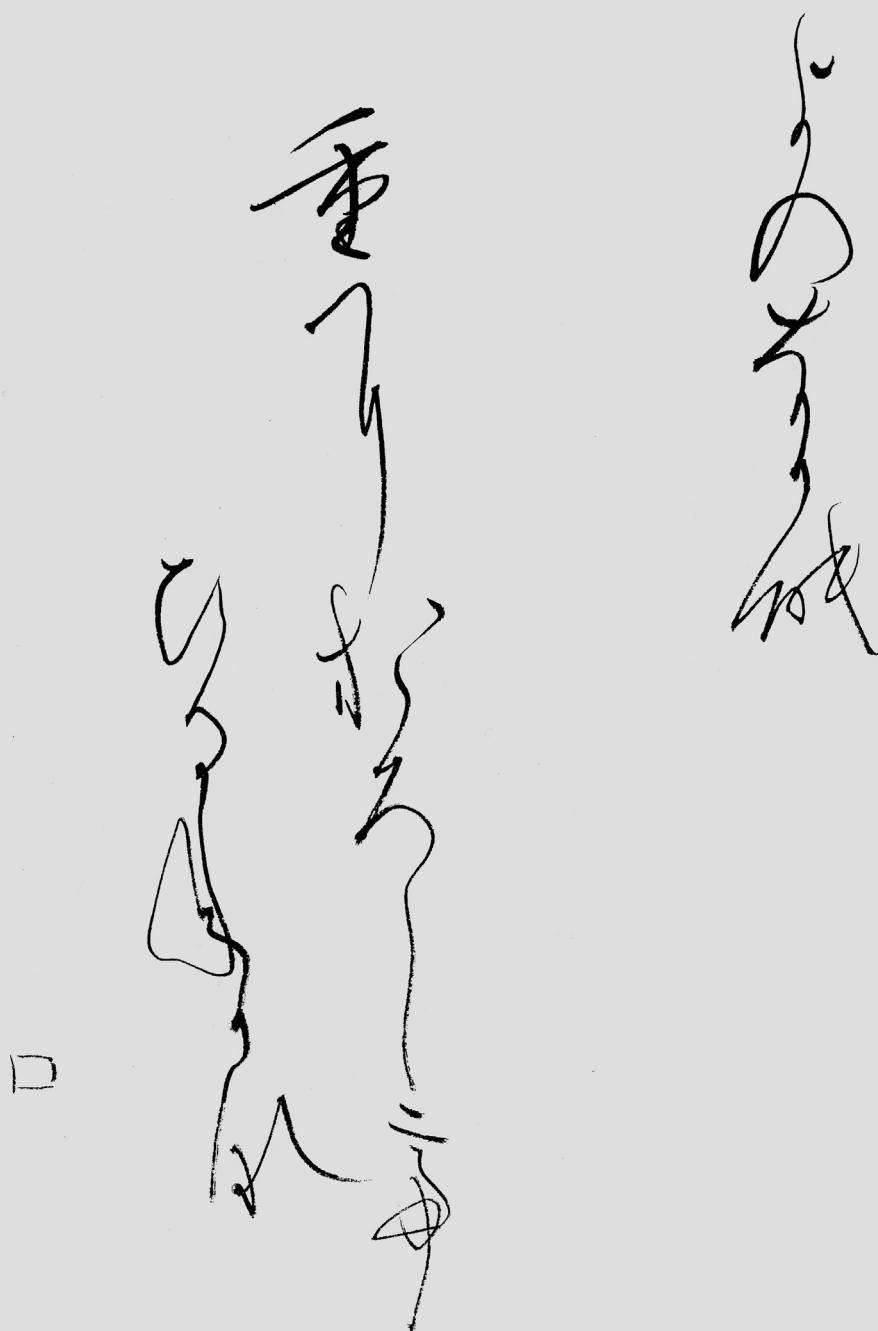
(9月10日締切)

半紙かな（1級以下）

世のなかの重荷おろして帝年可那
（正岡子規）

※支部名・級・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。
※ちらし文字変換は自由。

支部名 級 姓 号
(鉛筆可)



若月久美子先生

(9月10日締切)

実用文

※準三段以上…行書を草書に変換は自由

〈書風任意〉

一文字の文字読みながら、登信
された人を思ひます。手書きの手紙
はこのような時代だからこそ大き
な役割のある手段です。

支那名　級級　姓号

石田輝仙先生

(9月10日締切)

細字

高須翠雲書「五體昭和千字文」より

P78

陳品構成巧美放送
陳品構成巧美放送
陳品構成巧美放送
陳品構成巧美放送
陳品構成巧美放送
陳品構成巧美放送

支部

段級

姓

号

(名前は必ず楷書で書くこと)

※ 一級以下は草書まで。初段以上は隸書まで。

※名前は楷書以外では違反になります。

17
cm
(よこ)
×
24
cm
(たて)

巧陳 こうちん
美品 びん
出品物を陳列する。
美しく上手なこと。

硬筆（初段以上）

夏の夜空に見事に咲いた大輪の

花。一瞬にして消え去るはかなき、

友の歓かうの声。さながら歓声

や活気と混じり合い、さまざまな

情感を呼び起します。

支教ふ

あ

枝子

青 柳 江 雲 先 生

：大輪…一瞬…夏の終わりの寂しさ…呼び…。

(9月10日締切)

硬筆（4級以下）

支部名 級
姓 号

藤原定家は鎌倉時代の歌人として
最もすぐれた人物である。

本院定型用紙・たて半分に書く

硬筆（1級～3級）

藤原定家は鎌倉時代の歌人として
最もすぐれた人物である。
支部名 級 姓 号

若月久美子先生

若月久美子先生

(9月10日締切)

中2用

支
部
名
段
級
名
前

学問の西洋

中3用

支
部
名
段
級
名
前

の店 民芸品

大 越 三 宗 先 生

小6用

支
部
名
段
級
名
前

の秋の風音

中1用

支
部
名
段
級
名
前

い出 旅の思

渡 邊 南 嶋 先 生

(9月10日締切)

小4用

支部名 段級 名 前

波
さき

小5用

支部名 段級 名 前

実
秋
り

大 越 三 宗 先 生

小2用

支部名 段級 名 前

フ
リ

小3用

支部名 段級 名 前

魚
り

鈴 木 翡 惠 先 生

(9月10日締切)

中 1

必要にせまられ、急な
準備は間に合わない。

中 2

開発が進むに従い、自
然が破壊されていく。

中 3

良寛は、禪僧、歌人、
書家としても有名だ。

小1・幼年用

支部名

段級

名

前

鈴木翡翠先生

中1～中3

青柳江

雲先生

小1・幼年

小 2

かぜに、白い花びらが
ゆれています。

小 3

木かげに入ると、すず
しい風がほおをなでる。

小 4

夜に鳴く虫の声に、元気
よく、とび回りたい。

小 5

の大空を鳥のように元気
よく、とび回ります。

小 6

日曜の朝、食事を作る
手伝いをしています。

小1～小3

田辺翠

鶴先生

小4～小6

齊藤翡翠

流先生

(9月10日締切)

小学部小筆課題

支部名

段級

名

前

夏の夜に
花火大会

中学部かな課題

支部名

段級

名

前

ほんと穴あく暑さ
かわ

ふきの葉に

船久保棠苑先生

半紙半分に書いて下さい (9月10日締切)

半紙半分に書いて下さい

漢字筆順表(教育漢字)

府 <small>府</small> (8画)	芙 <small>芙</small> (7画)	扶 <small>扶</small> (7画)	布 <small>布</small> (5画)	付 <small>付</small> (5画)	父 <small>父</small> (4画)	夫 <small>夫</small> (4画)	不 <small>不</small> (4画)	瓶 <small>瓶</small> (11画)	敏 <small>敏</small> (10画)	頻 <small>頻</small> (17画)	賓 <small>賓</small> (15画)	貧 <small>貧</small> (11画)
一广广广广府	一十一廿廿廿廿芙	一十才才才才扶	ノ大右布	ノナ右付付	ノハ父	ノハ父父	一ノ不不	ノ兰并瓶瓶瓶	ノ々々々々敏敏敏	ノトトトトトトトトトト	ノニニニニニニニニ	ノハハハハハハハハ
譜 <small>譜</small> (19画)	賦 <small>賦</small> (15画)	膚 <small>膚</small> (15画)	敷 <small>敷</small> (15画)	腐 <small>腐</small> (14画)	普 <small>普</small> (12画)	富 <small>富</small> (12画)	符 <small>符</small> (11画)	婦 <small>婦</small> (11画)	浮 <small>浮</small> (10画)	赴 <small>赴</small> (9画)	負 <small>負</small> (9画)	怖 <small>怖</small> (8画)
三言言詳詳詳譜譜	日目賄賄賄賄賦	一上广广广广膚	一上广广广广敷	一广广广广腐	一广广广广普	一广广广广富	一ノ竹竹符符	ノ女女女女女女	ノシシシシシシ	一十土ヰヰヰヰ	ノクククククク	ノハハハハハハ

令和2年後期昇段試験要項

◎かな部

◆A部 六段・五段に応試

(イ) 聯落 $\frac{1}{4}$ つぎ以内 「たて」に揮毫
雲かかる遠山烟の秋されば思ひやるだに悲しきものを (西行)

(ロ) 全懐紙 「たて」に揮毫
秋かぜの吹きにし日より音羽山みねのこずゑもいろづきにけり (紀貫之)

(ハ) 古典臨書 (揮毫部分は任意)

「小島切」を半紙半分相当 (たて) に書く

◆B部 四段・三段に応試

(イ) 聯落 $\frac{1}{4}$ つぎ以内 「たて」に揮毫
いにしへの秋のそらまで角田川月にこととふ袖のつゆかな (藤原俊成女)

(ロ) 半切 $\frac{1}{2}$ 「たて」に揮毫
落雁の声のかさなる夜寒かな (森川許六)

(ハ) 古典臨書 (揮毫部分は任意) 「関戸本古今集」 7~8行相当 (たて) に書く

◆C部 二段・初段に応試

(イ) 半切 「たて」に揮毫
白露も時雨もいたくも山は下葉のこらず色づきにけり (紀貫之)

(ロ) 古典臨書 (揮毫部分は任意)

「高野切第一種」を4~5行相当 (たて) に書く

*級から級への受験者はD部に応試のこと。

◆D部 初段に応試 (用紙・半切)

楷 書 欧陽詢・九成宮醴泉銘
行 書 王羲之・蘭亭序

*級から級への受験者はD部に応試のこと。

出品の際、バーコードを必ず貼付の事。貼り忘れた場合は保留となります。

P	P	P	P	P	P
• 28 参照	• 27 参照	• 26 参照	• 25 参照	• 24 参照	• 23 参照

◆A部 六段・五段に応試 (用紙・聯落 $\frac{1}{4}$ つぎ)

楷 書 欧陽詢・皇甫誕碑
行草書 米芾・苕溪詩卷
隸 書 礼器碑

楷 書 蘇慈墓誌銘

行草書 董其昌・行草書卷

隸 書 曹全碑

◆B部 四段・三段に応試 (用紙・謙慎サイズ40cm×160cm)

楷 書 欧陽詢・九成宮醴泉銘
行草書 王羲之・集字聖教序
隸 書 曹全碑

P	P	P	P	P	P
• 28 参照	• 27 参照	• 26 参照	• 25 参照	• 24 参照	• 23 参照

◆C部 二段に応試 (用紙・半切)

楷 書 欧陽詢・九成宮醴泉銘
行草書 王羲之・集字聖教序
隸 書 曹全碑

P	P	P	P	P	P
• 28 参照	• 27 参照	• 26 参照	• 25 参照	• 24 参照	• 23 参照

◆D部 初段に応試 (用紙・半切)

楷 書 欧陽詢・九成宮醴泉銘
行草書 王羲之・蘭亭序

P	P	P	P	P	P
• 28 参照	• 27 参照	• 26 参照	• 25 参照	• 24 参照	• 23 参照

◎実用文

半紙タテ書き。落款は行書又は草書

◆A部（準三段以上に応試）

普通印は書者の名や号を刻したもの用いますが、書者の姓名、雅号ではなく好みの詩句や成語を刻したもの遊印といいます。文人達に多く用いられました。

◆B部（二段以下に応試）

書の文字間、点画間の気持の繋がり、流れを氣脈という。優れた作品は、線が続いていなくとも氣脈が貫通していると感じられる。

◎細字部

半紙横書き、落款は楷書・旧漢字使用

（初段受験の方は楷行草の三体、準二段以上受験の方は楷行草隸の四体を揮毫して下さい。）

時望水雲無限處 蕭然獨聽隔林鐘

※級から級への受験者は草書までを揮毫のこと。

◎硬筆部

◆A部 六段・五段に応試

本院定型用紙に楷・行・草別葉に揮毫のこと。（書風は自由・落款は各体に書く。）

書の学習には手本を忠実に真似る形臨、手本の筆意を汲むことに
重点を置く意臨、練習後、手本を見ないで書く背臨がある。

◆B部 四段～準二段に応試

本院定型用紙に楷・行・草別葉に揮毫のこと。（書風は自由・落款は各体に書く。）

章法とは字形、字間・行間の余白、墨の潤渴、線質等を考え、
調和のとれた作品にまとめる事です。

出品の際、バーコードを必ず貼付の事。貼り忘れた場合は保留となります。

◆C部 初段に応試

本院定型用紙タテ半分に、楷・行別葉に揮毫のこと。（書風は自由・落款は各体に書く。）

命毛とは筆の先端のことで、毛筆の性能を左右する処です。

※級から級への受験者はC部に応試のこと。

◎昇段試験 実物大手本料・応試料

科目	種別	六～準五段を受験	四～準三段を受験	二～準二段を受験	初段を受験
漢字	手本料 (1書体)	5,000	3,500	2,500	2,000
	応試料	4,500	4,000	3,500	3,000
かな	手本料 (1セット)	8,500	7,500	6,000	6,000
	応試料	4,500	4,000	3,500	3,000
硬筆	手本料 (3書体)	7,000	6,000	3,000 (2書体)	
	応試料	3,500	3,000	2,500	2,000
実用文	手本料	2,000		1,500	
	応試料	3,500	3,000	2,500	2,000
細字	手本料	2,500		2,000	
	応試料	3,500	3,000	2,500	2,000

※合格者には段級証明書を発行します。
※手本希望の方は手本代と返送用封筒（切手添付）を同封して直接希望の師範へ依頼して下さい。
※揮毫した師範は一回限り無料添削の義務あるものとし、二回以上添削希望の者はその師範の指示に従つて下さい。
※漢字作品出品の際、提出作品を、楷・行草・隸の順に重ね、一番上の作品の左下に鉛筆で支部名・現在の段級・姓号を記入して下さい。（仮名作品はそれに鉛筆で記入）
※バーコード出品券にも現在の段級を記入し、一枚だけ貼り付けて下さい。

蕭相降昂緯之跡 精據德依仁
居貞體道含章表質詎待變於
朱藍恭孝為基寧取訓

蕭相。降昂緯之淑精。據德依仁。居貞體道。含章表質。詎待變於朱藍。恭孝為基。寧取訓。（33字）

行草書 茗溪詩卷（宋・米芾）

中國法書選 48
P 14 15

松竹留因夏 溪山去為秋 久賈白
雪詠更度宋 菴謳纔會玉鱸堆
茅園金橘滿洲 水宮無限

松竹留因夏。溪山去為秋。久賈白雪詠。更度采菱謳。縷會玉鱸堆案。團金橘滿洲。水宮無限。（35字）

後期昇段試験課題

(四段・三段)

諸侯之俗，延譽而出周境

其年重出聘齊。受天子之命。問諸侯之俗。延譽而出周境。

(22字)

(六段・五段)

亂不尊圖書倍道畔德離敗聖
興食糧亡于沙丘君於是造立禮器樂之音符鍾磬瑟

是

造立

亂不尊圖書倍道畔德離敗聖
興食糧亡于沙丘君於是造立禮器樂之音符鍾磬瑟

※中國法書選では欠字になっており是は書かなくてもかまいません。

楷書 蘇慈墓誌銘 (隋・作者不詳)

中国法書選 26

P 56 57

隸書 礼器碑 (後漢・作者不詳)

中国法書選 5 P 9 12

後期昇段試驗課題（四段・三段）

行草書 董其昌「行草書卷」（明）

中國法書選 51 P10 11

衆生狹劣故以華嚴廣之以福

趙翥也衆生執着故以法華解

衆生狹劣。故以華嚴廣之。以癡起教也。衆生執着。故以法華解。（24字）

隸書 曹全碑（後漢・作者不詳）

中國法書選 8 P8

尉北地大守文臻少貫名州郡不
幸早世是以位不副德君

尉北地大守父臻少貫名州郡不幸早世是以位不副德君（23字）

後期昇段試驗課題（二段）

楷書 九成宮醴泉銘（唐·歐陽詢）

中國法書選31
P 13

同堯肌之如腊甚禹足之
胼胝針石屢加腠

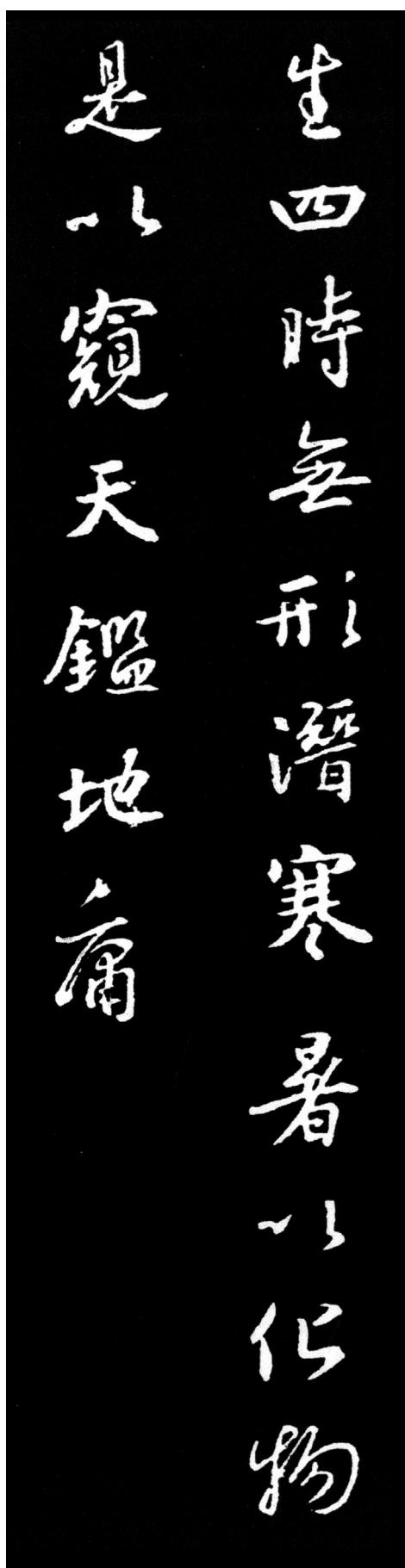
同堯肌之如腊甚禹足之
胼胝針石屢加腠

行草書 集字聖教序（東晉·王羲之）

中國法書選16
P 3

生四時無形潛寒暑以化物
是窺天鑑地庸

生四時無形潛寒暑以化物是以窺天鑑地庸（18字）



後期昇段試驗課題

(初 段)

承以石檻引爲一渠其
清若鏡味甘如醴

承以石檻。引爲一渠。其清若鏡。味甘如醴。(16字)

楷書 九成宮醴泉銘 (唐·歐陽詢)

中國法書選31 P21

(二 段)

涼州常爲治中別駕紀綱萬里朱紫不謬出
萬里朱紫不謬出

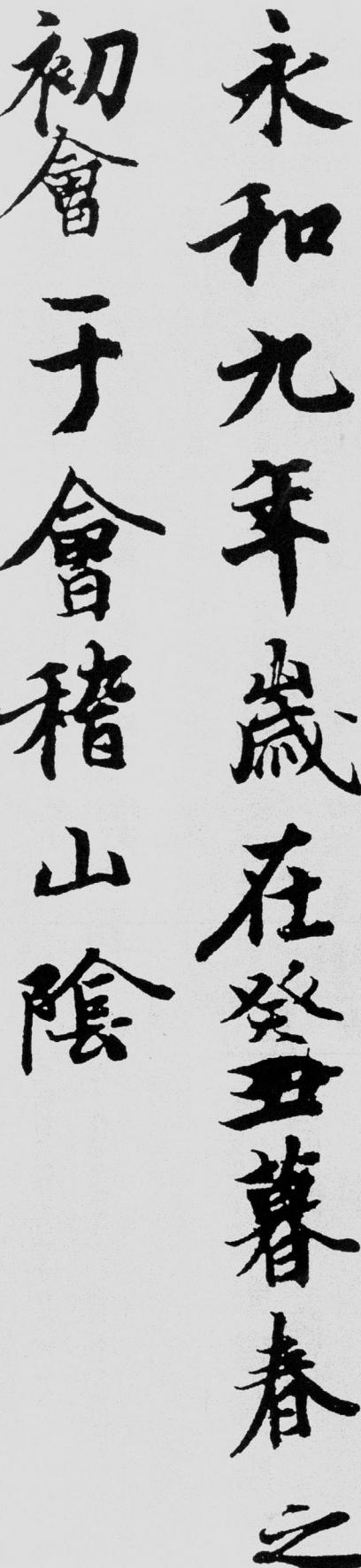
涼洲常爲治中別駕紀綱萬里朱紫不謬出(17字)

隸書 曹全碑 (後漢·作者不詳)

中國法書選8 P11·12

行書 蘭亭序（東晋・王羲之）

中国法書選15 P 14



永和九年。歲在癸丑。暮春之初。會于會稽山陰。（18字）

□年間入賞者表彰

月例作品で多数の入賞をされた方を表彰致します。

◆月例競書で年間に

一般 20点以上 学生 15点以上

入賞されている方は明細を添えて申請して下さい。

【点数計算方法】

令和元年8月号から

令和2年7月号まで

優秀賞（賞）1回：2点

入賞（※）1回：1点
として計算して下さい。

〔明細記入例〕	
○月号	半紙規定三段
△月号	細字三段
4月号	細字三段
5月号	実用文準四段
6月号	硬筆三級
① ② ③ ④ ⑤	※ ※ 賞 ※ ※
1点	1点
1点	2点
1点	1点
計〇〇点	

◆期間
令和元年8月号から
令和2年7月号まで
す。

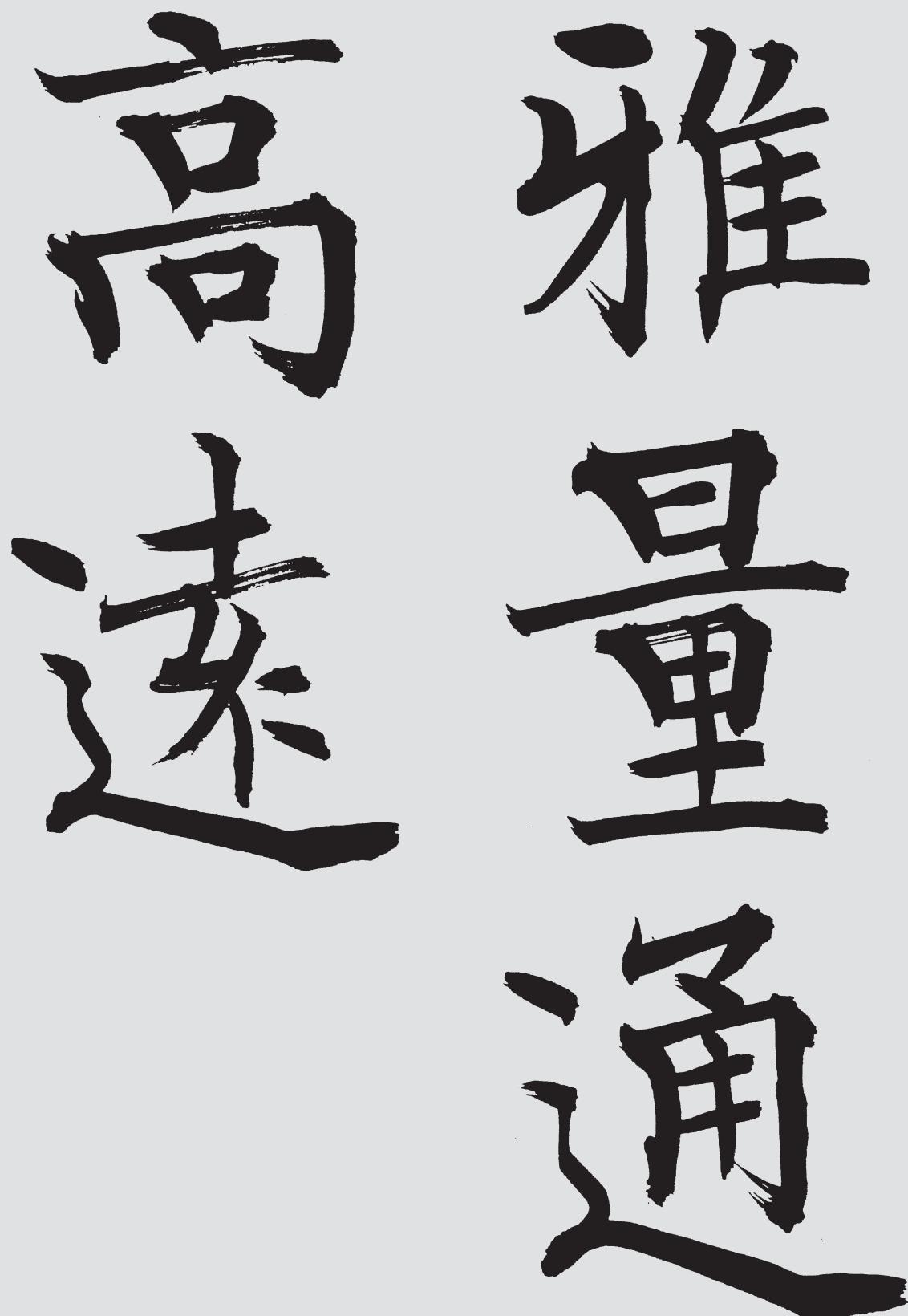
◆締切 8月15日

今年の「夏期講習会」は、
中止といたします。

参 考 手 本

※これは規定課題ではありません。

雅量は高遠に通じ



成瀬映山先生